



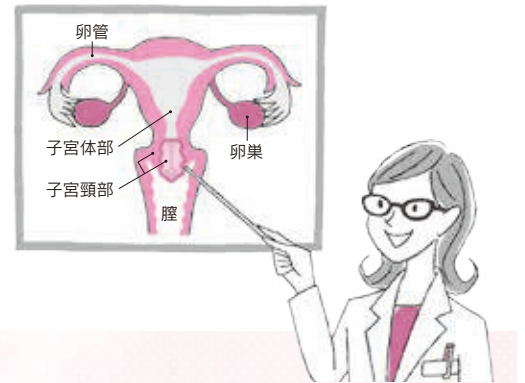
日本通運健康保険組合 健康管理センター 認定産業医
医学博士・順天堂医院代謝内分泌内科非常勤助教
医療法人社団めぐみ会 自由が丘メディカルプラザ院長
日本内科学会認定内科医・日本糖尿病学会専門医
日本糖尿病協会療養指導医
日本医師会認定産業医・認定健康スポーツ医

経歴 岩手医科大学卒
順天堂大学大学院 医学研究科(博士課程) 卒
専門領域 糖尿病・代謝内分泌学

子宮頸がん



子宮頸がんは子宮の入り口の子宮頸部で発生するがんで、子宮体がんは胎児を育てる子宮体部で発生するがんです。子宮頸がんは発見されやすく、早期に治療すれば予後のよいがんですが、進行すると治療が難しいため早期発見することが重要です。



ウイルス感染が原因に

子宮頸がんの発生には、ヒトパピローマウイルス(以下 HPV)の感染が関わっていることがわかっています。HPV は性交渉で感染しますが、多くの場合はがんになる前に排除されます。しかし排除されず長期間感染が続くとがんの発症につながります。HPV の感染を予防するワクチンがありますが、ワクチンを接種しても検診を受けることは必要です。

また喫煙も、子宮頸がんの危険因子であることがわかっています。



子宮頸がんの危険因子

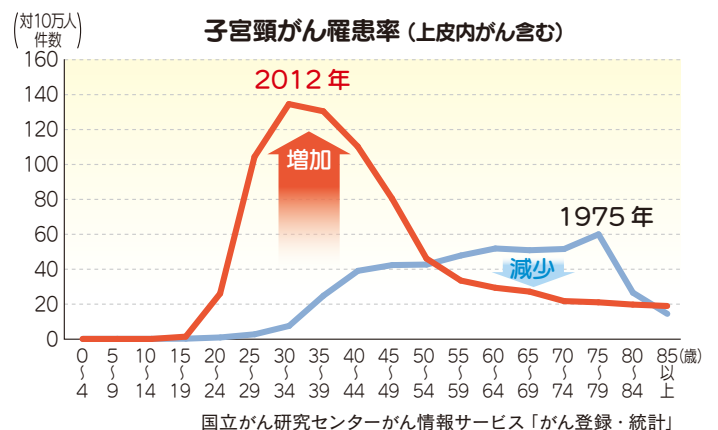
- ⚠ HPV の感染
- ⚠ HPV 以外の性感染症
- ⚠ 喫煙
- ⚠ 経口避妊薬の使用
- ⚠ 多産

若い人で増えている子宮頸がん

子宮頸がんの発症は、30 歳から 40 歳がピークです。50 歳以降では減少している一方、20 歳代・30 歳代で増加しています。

子宮頸がんは、がん細胞に進行する前の異形成という状態を経てがんになることがわかっています。子宮頸がん検診では、症状がない異形成の段階で発見することが可能です。

20 歳から 30 歳代は結婚・出産の年齢層であり、子宮温存が可能な早期のうちに発見することが大切です



正常 ▶ 異形成 ▶ 上皮内がん ▶ 浸潤がん

▲ 検診を受ければこの段階で発見できる

子宮頸がん検診を受けて早期発見を！

～子宮頸がん検診とは？～



国では、20 歳以上の女性に 2 年に 1 回、細胞診による子宮頸がん検診を受診することを推奨しています。子宮頸部の細胞を綿棒やブラシなどでこすり取り、顕微鏡で調べる簡単な検査です。早期の段階で見つければ、子宮を温存した治療が可能です。

「医師採取」と「自己採取」が選べる場合は、「医師採取」での検査が確実です。

閉経後の肥満は乳がんや子宮体がんの危険因子にもなるので、日常生活での活動量を増やすとともに、適度な運動を習慣として行い、肥満の予防・改善に努めましょう。

我が国の乳がん検診・子宮がん検診の受診率は残念なことに先進国の中でも極めて低く、30～40% 程度にすぎません。医学の進歩でがんは早期発見、治療ができるよう

になり、約半数は治る時代になりました。私たちが普段できることは、予防&検診などでの早期発見です。

もっと「乳がん」と「子宮がん」に関心を持って、まずは検診を大事にしましょう。

